

奇想天外 面識のない人が四国時報の裏指南役に？

ガセネタをそのまま報じる ゴロ付・川上道大も末期か

一連の経緯からすでに読者の皆様ご承知の通り、小悪人・川上道大は、原告の四国時報発行により、己のテリトリー

意識の危機感から原告の社会的イメージを悪くせんと画策に苦心して、あらゆる虚言を弄して、その出鱈目を罷り通せるとでも錯覚したのかの如き、不屈き極まりない中傷、挑発記事を執拗且つ狡猾に組み立てて報じる身勝手な行為を続けています。この小悪人・川上の不法且つ理不尽さに対して厳正に断固として、その都度「四国時報・号外」をもって反撃。その回数は今回でパート16となります。さて、今回は連休もあってか複数の協力先から「四国タイムズの今月号はまだ届いてませんよ」と連絡を頂きながら心待ちにしていたところ、5月号の記事を見て最早反論に値しないお粗末な内容に、強がってはいるものの川上道大の精神状態が心配になった。「奇想天外」な記事以外、川上には書く手段もその材料も無いことを自ら自白しているも同然だ。まあ折角なのでお相手してあげよう。先ず4月18日の口頭弁論を再現し紙上実況してみよう。当日、裁判長から川上の被告代理人生田暉雄弁護士に対して「裁判所が指摘しているア〜クの8項目について、その報道が真実である立証は、4月18日付提出の準備書面による内容では不十分であるので、より直接的且つ客観的な証拠を示して立証しなさい」と告げられ生田弁護士は「そのつもりで提出したのですが・・・それでは、より詳しく書き直して提出します」とこんな場面の展開でした。つまり、被告川上は原告が摘示した3点、

①六代目山口組直参 倭和会 飯田倫功会長の企業舎弟

②ねずみ講(無限連鎖講)

③建築費の踏み倒し

について、何の証拠も示せず、只々原告を任侠界の一員であると決め付けて、被告川上の行為がさも公共性に叶った主張であると強弁するだけで、その論理の主幹となる部分に原告が、かつて地元出身の侠客と昵懇だったことを根拠としているが、原告は、その事実を何ら否定するものではない。世間の厳しい評価も省みず、幼き頃からの友情を優先したのである。その最中も原告は誰の舎弟でも子分でもない。この事実は、ご当人も被告川上も知っておきながら、四国時報潰しの材料に被告川上自身も尊敬していると公言して憚らぬ人物を結果的に利用して、晩年の侠名に傷を付けてしまっていることが解らないのだから始末が悪い。この人と親しくさせてもらったからといって何故原告が六代目山口組倭和会・飯田会長の企業舎弟となるのか？この狂った思考の被告川上の妄想は、次々と無関係な人物や団体と原告とを結びつけた妄想記事を憶面もなく報じるしか算段がつかないのであろう。四国タイムズ5月号の四国時報中傷記事に想定外な記事が顔写真入りで掲載されていた。四国タイムズも末期かと思いながら読み進めていくと、何とこのF氏が原告に入れ知恵しているかのように創作しているが、このF氏と原告は接点も面識もないし全くの無関係である。F氏と原告共に「なんのこっちゃ!？」である(笑)原告の準備書面の内容や、全く無関係のF氏の記事で紙面を埋めなければならないほどネタ切れしている。裏面へ

〒768-0011

観音寺市出作町 603-3

電話 0875-25-6883

編集発行人 木下俊明

もうここまでくると裸雑誌以下だ。川上よ!新聞は四国時報に任せて四国タイムズは廃刊してはどうだろうか。提訴されて未だ立証ができない(できる訳がないのだが)「原告は倭和会の企業舎弟だと警察に登録されているのか?」「企業舎弟と言うなら原告より上納金が何時どんなルートで倭和会に流れたのか?」「●●●の宿観音寺の何号室が倭和会の拠点だというのか?」「盛力会から倭和会に寝返った?組員でもない原告がどう寝返るのか?就寝中以外で」等々早く示せ!!前号外でも云ったが、小悪人・川上道大程度を相手に、余計な費用をかけてまで弁護士を雇う必要はない。「六法全書」片手に十分である。「類は類を呼ぶ」の例えがあるが、被告川上が相談したとある有識者が即座にF氏だと決め付けた!それがもし本当なら被告川上と同程度の人物であろう。又、「山口組時報と四国時報の関係」との見出し記事は、反論の必要などは全くなく、むしろ四国時報創刊以来19号まで読んだ人達から如何に四国タイムズがゴロ付ゴシップ新聞であり、その発行人である川上道大が幼稚な人物か判断され、ここまで無理なストーリーを組むしか脳がないのかと思うと、こんな低能な奴を相手に正直馬鹿らしくなってきたもいる。元々本件は被告川上と愉快的仲間達から仕掛けた「くだらない言い掛かり」であることを忘れてもらったら困る。まあここまでボロクソに反撃喰らうのもゴロ付新聞21年余りの歴史の中でも初めてではないですか?無理に無理を重ねた中傷記事と偽情報。しかも伝聞ばかりだ。こんなものを証拠として厚顔にも公判に提出し時間稼ぎする姑息な野郎である。ところで、大法螺吹きで有名な観音寺市常磐地区在住の十鳥晴美さんが、ある筋から依頼され、被告川上に情報提供した件で被告川上同様、原告側から報復襲撃されるなどと大袈裟に裁判所に陳述している。「怖くて夜もおちおち寝れず、夫婦共々、戦々恐々としているそうだ」馬鹿も休み休み言ってほしいものだ。まあこれは小悪人・川上流の表現であることは観破してはおるがね。でも文章にしているのだから、十鳥さんを見かけたら、さぞ寝不足で寝顔なんでしょうね。ある筋からの依頼とはいえ、自分の発言や特に他人様に関することは、性根を据えて話すことだ。「ここだけの話やけど」「ワシから聞いた言わんとってよ」等と陰口叩く人間がよくいるが、こんなのに限って何処で話す時もこの前置きがある(笑)狭い地域なので、いずれは相手の耳に入るものである。前号外で四国時報が提案したジャーナリスト田原総一郎に成り代わって、四国タイムズが山口組総本部に直接取材してはどの問いかけにはさすがにバツが悪いのか無視を決め込んでいる。「やられっ放しのさや侍・川上道大」とはこんな程度の男である。それにしても今回の四国タイムズ5月号は面白かった。まさか元市長候補のF氏が四国時報の裏指南役として紙面に登場するとは本当に想定外だった。こじ付けどころか何でもありですなあ。観音寺市・三豊市の有識者がそう言ったとか?読解力ないなあ。誰ですのん?その有識者とかいう人。こんな記事を平気で掲載し「なかなか的を得た表現」と自己陶醉するナルシストな川上も川上だが。F氏ご本人には大変ご迷惑な話で言葉もないが、今後も今号のような支離滅裂な妄論記事でさや侍・川上の悪足掻きが続くと思いますが、すでに勝負は見えています!!よく警察24時の番組で「どんな小さな情報でも結構です!お願いします。」と視聴者に訴えかけているが、四国タイムズでは「どんなガセネタでも結構です!ネタが無いんです!お願いします。木下に勝たんといかんのです。ほんま頼みます(泣)」とでも訴えかけているのだろうか。